

私という名の世界

田代 美夏

和洋国府台女子高等学校

世界という一つの単語には沢山の意味が込められている。世の中のことを指す意味や社会のことを指す意味。その中でも知る人が限られている私だけの世界を紹介したいと思う。

私には中学 3 年生のときから好きだった推しがいた。私だけの世界を紹介するって言っていたのになんで私以外の他人を紹介しているのだろうかと思う人がいるかも知れない。確かに言葉的な意味ではそうだ。でも昔の私にとってその人の全てが私の世界を作り出している人だった。その人はとても頭が良くて歌もダンスも上手でノリも良くて優しく年が近い人の中で一番尊敬できる人だった。私はその人が作り出す世界観がとても大好きだった。私はその人のことを好きになってからその人中心の生活になった。SNS が更新され即座にいいねとコメントを書き、ライブ配信していたら絶対に終わるまで何時間も配信を見続けていた。そのライブ配信の感想を自分で文章にまとめて何度も読み返して幸せに浸っていた。

その人に半依存しながらも時間は流れていって私は高校生になっていた。私が高校生の時その人は就活生だった。私は就職がうまくいって入社してもずっと私の推しでいてくれると思っていた。けどそんな考えは浅はかで高校 1 年の秋、私の世界が変わった。

急に「就職するので SNS 消します」という短い文章に大きな意味が込められた投稿がされていた。今までの SNS 上に残っている私の築き上げてきたものが心のなかで崩れていく感覚を味わった。私の中の世界の主体がいなくなって世界が崩壊していった瞬間だった。その人は死んだわけでもない、同じ時代を同じ時間の流れを生きているのに目に見えるものとして存在してくれなくなるのがとても悲しかった。その日はご飯も味がなくて生きた心地がしなかった。

数日が経ってその人は 1 つだけ SNS のアカウントを消した。私は誰よりも早く気がついて残っている SNS を使ってダイレクトメッセージを送った。返信は予想以上に早く返ってきた。早く返信してくれたのを見る勇気もなく何時間かおいてからそのメッセージを開いた。

ドキドキしながら見たメッセージは「何も言わずに勝手にアカウント消しちゃってごめんね」というものだった。私は罪悪感でいっぱいになった。大好きな人に私の寂しいという感情に任せて不本意に謝らせてしまったということに今更気づいた。ほんとは寂しい悲しいという気持ちを押し殺して、就活が上手くいってお祝いしなきゃという気持ちを優先させ「お祝いごとなのに謝らないでください！就職おめでとうございます！」とメッセージを送った。そしたら「ありがとう！」の 5 文字が返ってきた。私はその言葉にホッと、未練なく身を引くことができた。

どんな形であれ急に世界が一変することはざらにある。いい方向でも悪い方向でも。今その人はちゃんと会社に勤めて同じ世界を生きていると思うと何だか不思議に感じる。それでも私がその人を好きだったということには変わらないし、ちゃんと本人に伝わっている。その事実があれば十分だ。壮大な世界に比べたら、私の世界が変わったところで世の中には何も変化をもたらさない。時間はいつもと同じ速度で毎日流れていく。たとえ私の世界がどんなに変わったとしても、その世界をいい方向に持って行ってくれたのは紛れもなくその人だ。そんな世界を私は生きていきたい。